

はじめに

「限界突破キャンプ」は、平成30年度から始まった事業です。平成30年度の報告書の「限界突破キャンプ」の“今後の方向性”に記載している通り、単年度事業としてではなく3年間をかけてよりよいプログラムに改善し、本事業を3年間のストーリーとして考え、3年間で完結することを目指して実施しました。

1年目、2年目に「赤城山」と「榛名山」の二山を制覇していますので、3年目には、残る上毛三山の一つ「妙義山」を追加し、「榛名山」と「赤城山」と「妙義山」の三山を制覇することにより、3年間で三山制覇を目指したいと考えました。

2年目の令和元年度から、3年目を見据えて、群馬県立妙義青少年自然の家の職員に推進委員をお願いし、準備を進めてきましたが、令和2年2月27日付け「新型コロナウイルス感染への対応に関する要請」が出され、事業及び団体の受け入れを中止し、4月16日、緊急事態宣言が全都道府県に拡大したため、令和2年度の「限界突破キャンプ」は、残念ながら中止の決断をすることとなりました。

「限界突破キャンプ」の副担当が次年度の主担当になるという継続性を構築し、職員が本事業を3年間のストーリーとして捉えることができるようにしたいと考えていましたが、1年間事業を延期したことにより、担当職員の継続という点については、当初の予定通りにはいきませんでした。

「限界突破キャンプ」は、以下のように毎年、工夫・改善（抜粋）を重ねてきました。

- ・ステージとテーマを設け、ねらいを参加者に提示
- ・ボランティアの早めの確保
- ・他者と協力する場面を増やし、参加者が褒められる経験を増やす
- ・野外炊事やテント泊等協同場面を増やす

特に今年度は、コロナ感染症の対応について、「国立赤城青少年交流の家における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」に基づいて取り組むことで長期自然体験活動を安全に実施することができました。

本報告書が、長期自然体験事業を実施する青少年教育施設の皆さんに少しでも活用していただけることと、青少年の体験活動の推進を図る一助になることを願っています。

最後に本事業を推進する為にご協力いただきました推進委員の皆様はこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

国立赤城青少年交流の家 所長 松村 純子

目次

はじめに

1. これまでの限界突破キャンプ

(1) 1年目（平成30年度）	01
(2) 2年目（令和元年度）	02

2. 今年度の限界突破キャンプの推進

(1) 趣旨	03
(2) 手立て	03
(3) 実施概要	03
(4) 推進委員会の概要	04

3. 限界突破キャンプ事業内容

(1) 日程	05
(2) プログラムデザイン	06
(3) 各ステージの内容	
①ファーストステージ「出会い」	07
②セカンドステージ「仲間づくり」	07
③サードステージ「挑戦」	08
④ファイナルステージ「旅立ち」	10

4. 調査結果

(1) ふりかえりシートからみる参加者の変容	11
(2) 限界突破キャンプにおける自己肯定感とやり抜く力の変容	13
(3) 屋外の体験活動が参加者の眼に与える影響	15

5. 成果と課題

(1) 成果	17
(2) 課題	17
(3) 推進委員より	18
(4) スタッフより	19

6. 3年間の取り組みで得られたこと

おわりに	22
------	----